

「生活期脳卒中患者における異常歩行パターンの類型化に 向けた後方視的研究」に対するご協力のお願い

研究責任者 川上 途行
研究機関名 慶應義塾大学医学部
(所属) リハビリテーション医学教室

このたび当院では上記の医学系研究を、慶應義塾大学医学部倫理委員会の承認ならびに研究機関の長の許可のもと、倫理指針および法令を遵守して実施します。

今回の研究では、同意取得が困難な対象となる患者さんへ向けて、情報を公開しております。なおこの研究を実施することによる、患者さんへの新たな負担は一切ありません。また患者さんのプライバシー保護については最善を尽くします。

本研究への協力を望まれない患者さんは、その旨を「8 お問い合わせ」に示しました連絡先までお申し出下さいますようお願いいたします。

1 対象となる方

2017年4月から2028年3月までに、当院で治療を受けた際の評価として歩行動作分析を行った方が対象となります。

なお、脳卒中の既往がない方、18歳未満の方は、本研究の対象ではありません。

2 研究課題名

承認番号 20241171

研究課題名 生活期脳卒中患者における異常歩行パターンの類型化に向けた後方視的研究

3 研究組織

研究機関

慶應義塾大学医学部

リハビリテーション医学教室

研究責任者

准教授 川上途行

4 本研究の目的、方法

本研究の目的は、生活期脳卒中患者における異常歩行パターンをこれまでの臨床評価として実施していた歩行分析結果を用いて類型化を図るとともに、異常歩行パターンと臨床評価との関連性を明らかにすることです。

本研究の方法は、これまで治療前後の効果判定として用いられてきた三次元動作解析システムに

よる歩行分析結果を収集し、解析を実施します。また、下肢の臨床評価（運動麻痺の程度を評価するものや、痙縮の程度を評価するもの）の評価結果を電子カルテより収集し、それらとの関係性を調査します。

5 協力をお願いする内容

歩行障害に対する集中的な治療や、ボツリヌス療法の実施前後に評価として実施した歩行分析結果を収集します。なお、本研究は、通常診療を超えない医療行為、評価を含みません。同時期に実施した臨床評価である Fugl-Meyer Assessment-Lower Extremity（運動麻痺の程度）、Modified Ashworth Scale（痙縮の程度）、Gait Assessment and Intervention Tool(異常歩行の程度)、快適・最大歩行速度、6 分間歩行距離(持久力の程度)、Trunk Impairment Scale(体幹機能の程度)、Manual Muscle Test(筋力の程度)、Range of Motion（関節の角度）、Stroke Impairment Assessment Scale（運動麻痺、感覚障害の程度）においても情報を収集します。

6 本研究の実施期間

研究実施許可日～2028 年 3 月 31 日

7 外部への試料・情報の提供

該当いたしません。

8 お問い合わせ

本研究に関する質問や確認のご依頼は、下記へご連絡下さい。

また本研究の対象となる方またはその代理人（ご本人より本研究に関する委任を受けた方など）より、試料・情報の利用の停止を求める旨のお申し出があった場合は、適切な措置を行いますので、その場合も下記へのご連絡をお願いいたします。

川上 途行（かわかみ みちゆき） / 准教授
慶應義塾大学医学部 リハビリテーション医学教室

TEL : 03-5363-3833(9:00～17:00)

FAX : 03-3225-6014

E-メールアドレス : keiorehab@gmail.com

以上